

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岩倉北小学校	階数	地上2階
建設地	愛知県岩倉市本町南新溝廻間2 他87筆	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居	平均居住人員	80 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,496 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年2月1日
敷地面積	21,800 m ²	作成者	平光 由佳
建築面積	1,982 m ²	確認日	2021年2月28日
延床面積	2,076 m ²	確認者	藤田 享弘



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	87%
④上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.3

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>12.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境										3.3
1 音環境				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.30	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.30	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20	-	-	-	
1.3 吸音				-	3.0	0.20	-	-	-	
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35	-	-	-	3.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	-	
1 室温				3.0	3.0	0.60	-	-	-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.40	3.0	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30	-	-	-	
3 光・視環境				0.2	3.3	0.25	-	-	-	3.3
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 昼光率				3.0	3.0	0.60	-	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30	-	-	-	
1 昼光制御				5.0	4.0	1.00	-	-	-	
建物外周に庇を設け、居室にはカーテン等を設置している										
3.3 照度				3.0	3.0	0.15	-	-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	3.0	-	-	
4 空気質環境				0.2	4.0	0.25	-	-	-	4.0
4.1 発生源対策				0.5	5.0	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質				3.0	5.0	1.00	-	-	-	
「F☆☆☆☆」をほぼ全面的に採用し、VOCについても発生量が少ないものを採用する										
4.2 換気				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 換気量				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.30	-	-	-	3.1
1 機能性				0.4	3.4	0.40	-	-	-	3.4
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	3.0	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	3.0	1.00	-	-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	4.0	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)				3.0	5.0	0.50	-	-	-	
居室の平均天井高さが2.7mを越えている										
2 リフレッシュスペース				3.0	3.0	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	4.0	0.50	-	-	-	
②～⑦、⑨～⑪に配慮した設計としている										
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				0.3	3.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	3.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.0	0.30		-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	児童らに行ったアンケートの意見を参考に計画を進めた	-	5.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	0.40		-	-	3.5
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.57	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.69	3.0	4.1	0.30		-	-	4.1
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			大便器に擬音装置を付けている	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63		-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	砕石、アスファルト舗装、緑石	3.0	5.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	①躯体+ペンキ仕上 ②躯体+軽鉄+仕上材 等	3.0	4.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.4	0.22		-	-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			シーリング(サッシ・タイル・ガラスまわり)、塗料等	3.0	5.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.6	0.68		-	-	
1	消火剤			-	2.0	0.33		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.33		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.33		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率87%	-	3.5	0.33		-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	2.6	0.33		-	-	2.6
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	歩車分離	-	5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.8	0.33		-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自		-	-	-		-	-	
3	悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	2.6	0.40		-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.60		-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	0.20		-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.20		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10
② 資源の有効活用			3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09
			外構緑化:12.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 岩倉北小学校

計画上の配慮事項	
総合	避難所となる屋内運動場一帯をグラウンドより90センチほど高く計画をし、地域住民を浸水被害から守ります 授業以外での利用(夜間・土曜・放課後)での相互利用がしやすいようにしています
Q1 室内環境	注)「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 線路側のアルミ製建具は、遮音性能「T-2」を採用し、その他は「T-1」とします 外断熱を採用します F☆☆☆☆の建築材料を採用します
Q2 サービス性能	注)「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 多目的便所の設置などのバリアフリー化に配慮します 設備・空間のプランニングの自由度が高い建築物形状としています
Q3 室外環境(敷地内)	注)「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 計画建物とグラウンドの間に緑地を計画しています
LR1 エネルギー	注)「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高窓を設置し、自然エネルギーの利用に配慮しています
LR2 資源・マテリアル	注)「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型機器を採用し、節水に配慮します
LR3 敷地外環境	注)「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内に適正な量の駐車スペースを設け、交通付加の抑制に配慮します
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。